

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪発生状況

スペイン内務省の犯罪発生件数報告（暫定版）によれば、スペイン国内での総犯罪発生件数（1月～3月分）は487,643件と、前年に比べ1.9%の減少となっているものの、殺人及び窃盗（置き引き・すり・侵入窃盗）は増加している。また、その他犯罪発生件数も減少傾向にはあるが、依然として高い水準で推移している。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

※（ ）内は前年比

殺人：72件(+9.1%)、強盗・脅迫：15,559件(-1.1%)、傷害：53,517件(-0.9%)、窃盗（置き引き・すり等）：169,129件(+0.1%)、窃盗（侵入窃盗）：31,154件(+7.7%)、窃盗（車両窃盗）：10,177件(-1.7%)、薬物犯罪：2,699件(-6.2%)

(2) 邦人被害発生状況（当館認知ベース）

当館が認知したスペイン国内での今期邦人犯罪被害件数（在バルセロナ総領事館が認知したものは含まない）は26件で、前期の23件より増加したが前年同期の33件からは減少している。

引き続き、スリ（9件）及び置き引き（15件）が大部分を占めている。凶悪犯罪は減少傾向にあるものの、深刻な失業問題等を背景に犯罪が増加・凶悪化する可能性があり、注視が必要である。

(3) 邦人被害事案

- ・ レストラン等で飲食中、足下、座席の背もたれ或いは空いた座席に置いた鞆を置き引きされる事案が、複数発生している。
- ・ 交通機関での移動中、買い物中或いは歩行中、気付かない間に鞆から旅券・財布等を抜き取られる事案が、複数発生している。

※その他の邦人被害例については、当館 HP「安全対策—過去1ヶ月間の主要な邦人被害例」参照。

2 テロ・爆弾事件発生状況

発生していない。

スペイン内務省は、2015年6月、フランス、チュニジア及びクウェートにおけるテロ発生を受け、スペイン国内においても類似的なテロ行為が発生する可能性は排除されないとして、テロ警戒のレベルを「3（中程度）」から「4（高い脅威）」（全5段階）に引上げ、本年3月22日に発生したブリュッセル連続テロ事件後も、同警戒レベルを維持するとし、スペイン治安当局によるテロ警戒及び治安強化が継続されている状況にある。

1月には、イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ（AQIM）のアル・アンダルス支部

(Al Andalus : 直接的にはスペイン南部アンダルシア州を指すが、歴史的にはイベリア半島や、中世イスラム勢力が征服した地域全体を指すこともある。「イスラム国」が同語を使用する際も、アンダルシア州のみならずイベリア半島全体を意味する)のスペイン人の男が「」ナポリ、ローマ、マドリード等のような都市におけるテロ攻撃を実行する旨脅迫している映像を公開した。

1月から3月の間、「イスラム国」やそのテロ行為をネット上で賞賛していた者、「イスラム国」参加の勧誘活動を行っていた者、ジハードイストを紛争地域に送り込んでいた疑いの者、「イスラム国」へ参加する目的で渡航準備していた者等が当館管轄内で逮捕されるとともに、「イスラム国」と関係があると推定される隠し武器庫も摘発されている。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の事件は認知していない。

4 日本企業の安全に関する諸問題

特段確認されていない。